

スモモ実生選抜の効率化を目指したデータベースシステムの開発(R8~10) (果樹試験場)

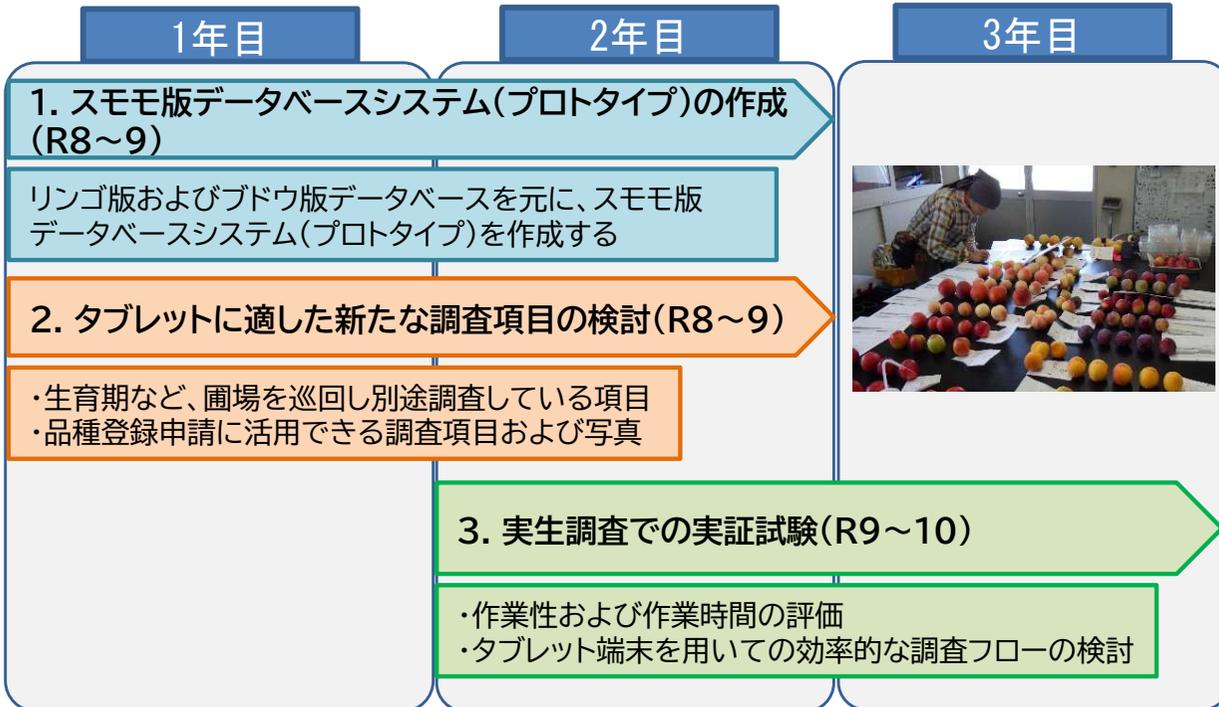
背景・目的

- スモモの実生選抜業務は、年間約300個体が調査対象である。交雑実生の果実品質数値は紙で管理しているため、データ整理に多くの労力を要する。また、生育期は圃場を巡回して調査するため、データの管理方法が問題となっている。
- 農研機構はリンゴの実生選抜用にタブレット端末入力機能を備えたデータベースシステムERAB*を開発した。利便性の高さからカキ版やブドウ版も開発されており、今後はモモ版を開発予定である。
- スモモは本県を代表する果樹の一つだが、農研機構ではシステムを開発する予定がない。
- そこで本課題では、スモモ版データベースシステムを開発し、効率的な入力・選抜システムの確立を目指す。**



*ERAB:Electronic Record Assistant for Breeding の略

研究内容



期待される効果

- 紙の調査カードの作成やデータ入力などの作業が不要になる。また、開花期や写真などのデータも一元管理が進み、時間や労力が削減される。
- 蓄積した実生データから果実重や糖度などの分布・分離を簡単に見える化でき、育種目的に沿った交雑親の選定が容易になる。
- データの管理や解析が容易になり、育種業務が円滑に進むことで、スモモ新品種が育成出来る確率が向上する。

(データ整理にかかる日数:約20日→0日)

